

“チェリストとして素晴らしいだけでなく、驚くべき音楽家である。” サー・アンドレ・プレヴィン

オーレン・シェヴリン (チェロ)

1998年～ ケルンWDR交響楽団(ケルン放送交響楽団) ソロチェリスト。

2001年 ロストロポーヴィチ国際チェロ・コンクール第2位グランプリ。



Oren Shevlin

チェロ・リサイタル サンプル・プログラム

【Program A】 ◆シューマン：民謡風の5つの小品集 op.102 ◆ブラームス：チェロ・ソナタ 第1番 ホ短調 op.38	◆グリーグ：チェロ・ソナタ イ短調 op.36 ◆ピアソラ：ル・グラン・タンゴ
【Program B】 ◆ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 op.120-1 ◆ブリテン：無伴奏チェロ組曲第1番 op.72・第2番 op.80・第3番 op.87 (もしくは)チェロ・ソナタ ハ短調 op.65	◆ドビュッシー：チェロ・ソナタ ◆ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ ニ短調 op.40
【Program C】 ◆シューマン：幻想小曲集 op.73 ◆コダーイ：無伴奏チェロ・ソナタ op.8	◆プロコフィエフ：チェロ・ソナタ ハ長調 op.119 ◆マルティヌー：ロシーニの主題による変奏曲

1969年イングランドのオールダム生まれ。チータム音楽学校と王立ノーザン音楽大学(マンチェスター)でラファエル・ザマー、ボリス・ベルガメンシコフ、フランス・ヘルメルソンらに師事。ロンドンのギルドホール音楽学校、及びケルン音楽大学を、共に最優秀で修了。1996年にヘルシンキのパオロ国際チェロ・コンクールで第2位を、また2001年のロストロポーヴィチ・チェロ・コンクールでは第2位グランプリを獲得。

1998年以来ソロチェリストを務めるケルンWDR交響楽団(ケルン放送交響楽団)と幾度となくソロ演奏を行うほか、ソリストとしてフィンランド放送交響楽団、ギェルツェニヒ管弦楽団、新モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団、ケルン室内管弦楽団、ドイツ室内アカデミー、ポーランド室内管弦楽団、バリ管弦楽団、フランス国立管弦楽団などと共演してきた。ナクソスからヨーゼフ・ハイドンの作品をリリースしている。またロンドンのウイグモア・ホールでも演奏を重ねてきた。

ソリストとしては、サー・アンドレ・プレヴィン、ミハイル・ユロフスキ、エリアフ・インバル、ペーター・ルンデル、ユッカ＝ベッカ・サラステ、クリストフ・エッセンバツハ、エミリオ・ボマリーコ、ローター・ツァグロゼク、オリヴァー・クヌッセンといった多くの指揮者たちと共演している。

室内楽では、自身が率いるピアノ・トリオ、シェヴリン・トリオでの活動に加え、これまでにピンカス・ズーカーマン、ファジル・サイル、ノー・カピュソン、ヴォルフガング・クリスト、クリスティアン・ゲルハーヘル、オーリン・ケルテットといった演奏家たちと共演してきた。デュオのパートナーである芦川真理子と組んで、ミュンヘン国際音楽コンクールのチェロ・ピアノ・デュオ部門で入賞している。

2011/2012シーズンで特筆すべきは指揮者エミリオ・ボマリーコとの

共演で、ルイージ・ダッラピッコラ作《ディアロギ》をその指揮で録音している。2013年には〈ヴィッテン音楽祭〉(ドイツ)に出演し、またハインツ・ホリガー指揮でCD録音したシューマンのチェロ協奏曲は高く評価されている。2014年にはフランコ・ドナトニのチェロ独奏作品をエディツイオン・ツァイトクラング(レーベル)からリリースした。2015/2016シーズンにはティアンワ・ヤン、ニコラス・リマーとピアノ・トリオで共演。また2017年には〈新しい室内楽のためのヴィッテン音楽祭〉で、マルコ・ストロッパ作曲のチェロと室内オーケストラのための協奏曲の世界初演。

2022年7月にはNHK交響楽団主催「N響 Music Tomorrow 2022」にソリストとして招かれ、岸野末利加：チェロとオーケストラのための「What the Thunder said / 雷神の言葉」(2021) [第69回尾高賞受賞作品・日本初演]とドナトニ：チェロ独奏のための「Lame」を演奏し絶賛を博す。

シェヴリンは、室内楽のコンサートシリーズである〈ケルンのための室内楽〉の創立メンバーの一人。使用楽器はマッテオ・ゴフリアー1730年製と、希少なジョン・フレデリック・ロット1850年製。2019年よりヴェルツブルク音楽大学教授を兼務している。

「技術的に非常に高い能力を持ち、それが洗練されたスタイルや、深い音楽性、情緒面の一貫した誠実さ、そして知的厳肅さと調和している芸術家が、時折現れることがある。

オーレン・シェヴリンはそんな芸術家である。冒頭から、(略)シェヴリンが並外れた深さと才能を備えた音楽家であることが明らかであった。(略)シェヴリンによるコダーイの無伴奏チェロ・ソナタop.8の演奏は衝撃的だった。」

英The STRAD誌 2000年9月号



芦川真理子(ピアノ)

6歳半よりピアノを岡本滋子氏に師事。ピティナヤングピアニストコンペティション、北日本ピアノコンクールで入賞。

東京都立芸術高校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻に入学。楊麗貞、米元えり、梅谷進、安川加寿子、国府弘子(ジャズピアノ)の各氏に師事。

芸大在学中よりテレビ、ラジオ出演、アンサンブルなどで全国各地演奏活動。同大学卒業後、ドイツのケルン国立音楽大学に留学。バヴェル＝ギリョフ氏に師事。ディプロマ取得。国家演奏家試験合格。

ヴァッパータールピアノコンクール(1991)で入賞。チャイコフスキー国際コンクール(1994)にて最優秀伴奏者賞を受賞。

現在はケルン国立音大で非常勤講師を務めるかわら、ドルトムント・クラヴィアデュオとして、またチェリスト オーレン＝シェヴリンとのデュオ活動、各地音楽フェスティバルでの演奏、オーバーベルギッシュクライシシムフオーニオーケストラ、グンマースバッハ管弦楽団などオーケストラとの協演、CD録音、国営ラジオ放送に出演など、ヨーロッパを中心に活動している。

お問い合わせ／コジマ・コンサートマネジメント

TEL.03-5379-3733 / 090-3727-6539

URL▶<http://www.kojimacm.com> E-mail▶kojimacm@ops.dti.ne.jp